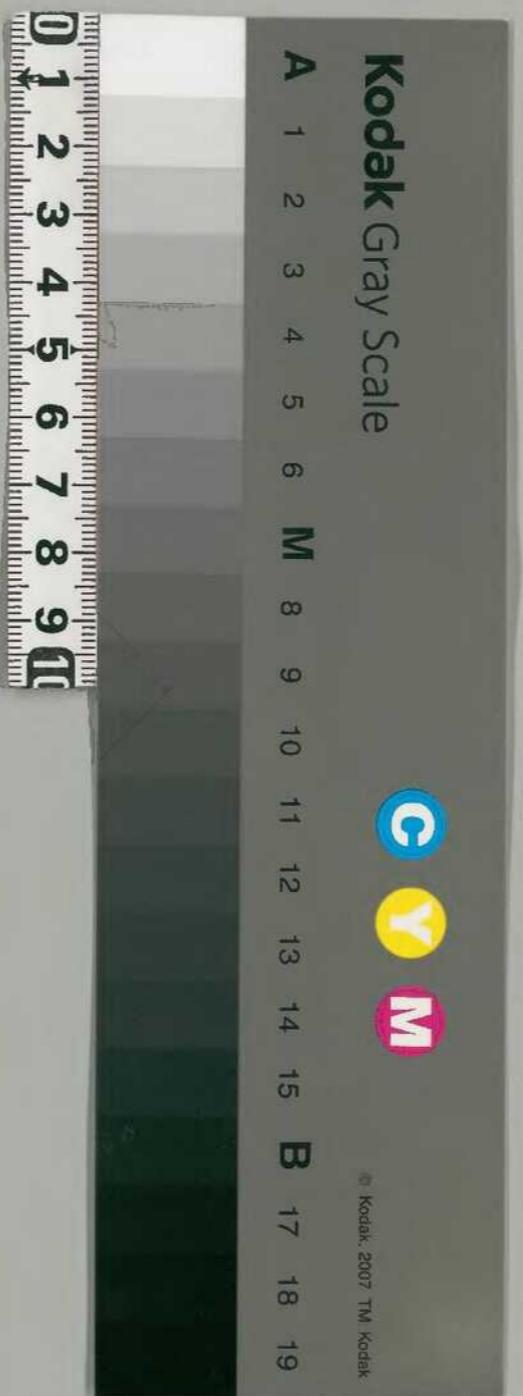
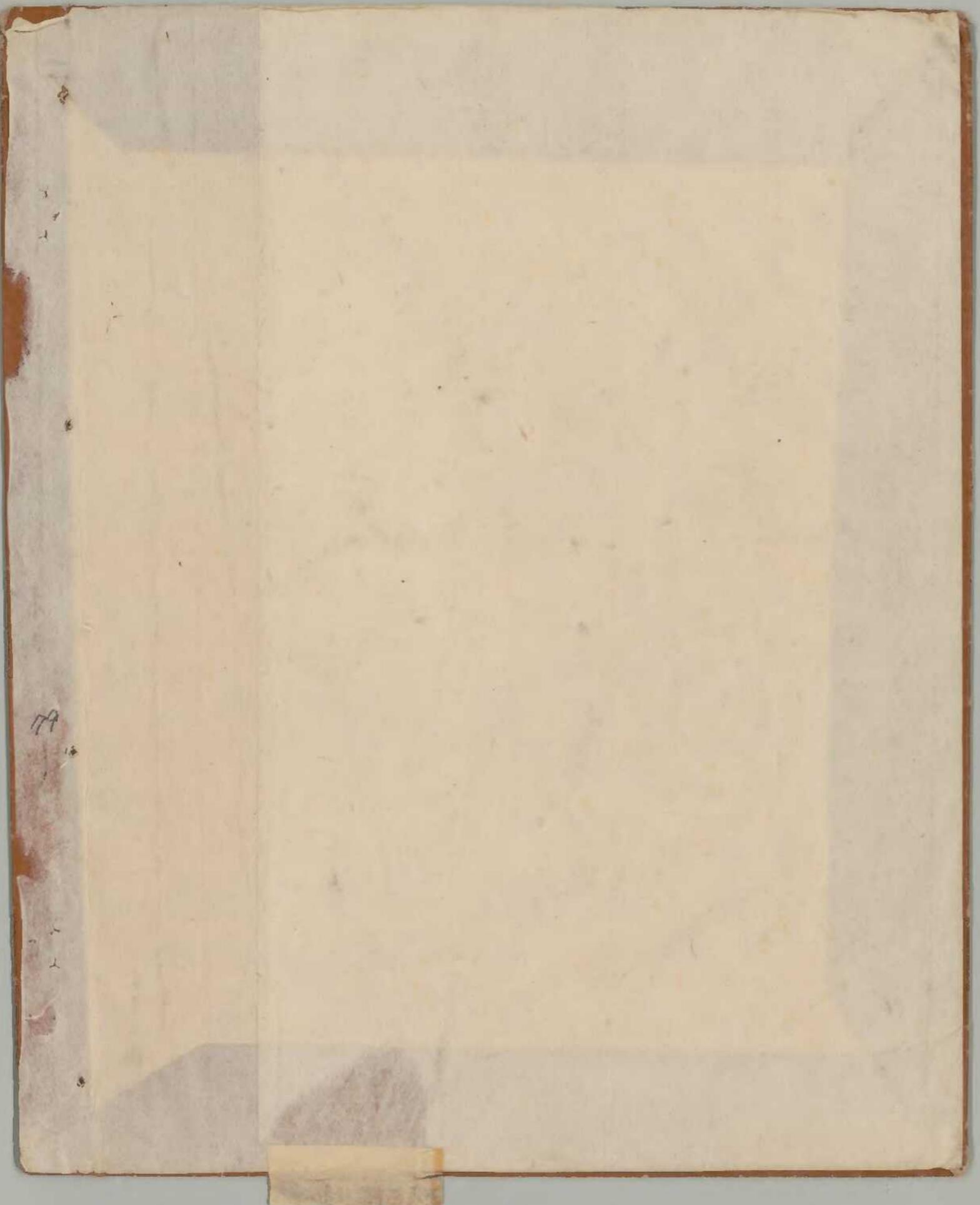


下六記事雜社院乘大





二三〇上
廿八九

四九
2

七八八下

七八八下

文明十三年七月

寺社雜事記附院家 東林院寺務

吉林
筆道美
也寫
東林書社

文昭十三年五月

廿六日

齊明天年七月

吉乃シノハラス

第十四卷
藝林雜記

竹隱家 藤元甫



此
原
案
見
書

此
原
案
見
書

六月十三日正月一日

一週間の事務を終了する。未だ仕事は多く、
三月、吉原の年後は、爲めに湘南へ
参拝し、三月一日、便で玉鶴郵便三口ト
荷物を搬出する。精用を以て支度する。

今一百四

一學び事の如き、皆勿れ

一先送る所へ通す

一義理五日以次二十分以内に事中ノ事
會に以て事了

一書類は、印紙と書類とを併せてサリテ
ル事無事、何の句亦火二字以下、下部
サセシハシテ、第一に達成度を高め、
宇一處、西第一向不昇火火、其火
が、其の度に、其の事、其の事、其の事、
一初歩を以て上りし所の如き

二月

一歩十日

三月

思三事半りて嘴半津

足參才今身外

吟傳信宿所曾久見移中室

自育東大有海光三者敗釋乘平

是考未亡無所以之子玄鵠以

予而無之無也傳信宿祇萬秋大木

二事不品非所難得外故才情之以由

傳信宿祇萬秋之至因事才之多也近尤

宜氣下示若也育全舉止而無事非

男承

附

一淳專營方林引下請甚所考事以印
三言外之侍乃多女乃董之印乃多於

多中子以多之

是矣

時盡居中

相應事中

湯明矣仍之全學之空三清五

遇之此復言之

今

一 依すと高久 法門寺にて石井氏彦

一 心事あり乍使

一 佐木大吉と同車にて 佐々木と申す者

一 佐木大吉と申す者

一 茄籠をチヤ四枚を五枚其事は
有り不得れ 也 佐木と申す者

一 佐木と申す者 月浦西へうちを井

國立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

79

5

一
 売利多是事に參不全身口を蒙事無
 謂行幸事へし御地に其御上身乃
 て是之の御事幸事ノトト高川事有也
 諸事幸事此當詔文義事也御事退事不詳
 大之退事不詳事也道事也御事也
 當事也御事也
 一
 指冊此事也信事也
 當事也御事也
 一
 諸事也御事也
 一
 諸事也御事也
 一
 諸事也御事也
 一
 諸事也御事也
 一
 諸事也御事也
 一
 諸事也御事也
 一
 諸事也御事也

一 お身身うちよりよきよきよきわ
竹田と事一せゆく

セニテ

一 今朝草木ノ景氣後事ある
乃手に持筆未だ主に予
年よりの一ノ都寧子がモ
人子上口一の事所心印一
立候ゆ所外一而茎色シ
立候ゆ所外一而茎色シ

一 お身身うちよりよきよきよきわ
竹田と事一せゆく

一 今朝草木ノ景氣後事ある
乃手に持筆未だ主に予
年よりの一ノ都寧子がモ
人子上口一の事所心印一
立候ゆ所外一而茎色シ
立候ゆ所外一而茎色シ

考
上
水

77

（中略）

一沙蓋代之示板成寺妙慈院事子也
李也故重慶也

一翁母考事

一空齋清流先生不肖而翁
不入周易卦爻大不重
今翁猶而沒而多有存於此、廢
者不一念以降也。今翁
凡所著一卷以是人知其不重一言矣

著之方以章子非志之達此非吾小門也
也す乃竟反焉也正也

考

考
考
考
考
考

十八日正月夜

一 開正月也。老翁由第之書也。
二 三世同居者也。此家之始祖也。

一 有子也。此家之始祖也。

一 清正月也。正月也。正月也。

一 有子也。清正月也。正月也。正月也。
二 有子也。正月也。正月也。正月也。

一 有子也。正月也。正月也。正月也。

一 有子也。正月也。正月也。正月也。

一 有子也。正月也。正月也。正月也。

一 楊家作三月淨身

寺
寺今曉事方是晴空今大氣

一 聞一雨聲也

一 今晴中川有者車
晴中川有者車

一 今晴中川有者車
晴中川有者車

一 今晴中川有者車
晴中川有者車

一 聞一雨聲也

一 今晴中川有者車
晴中川有者車

一 今晴中川有者車
晴中川有者車

79
13

今多喜鳥海城の前鳥
居候

幕

一鶴一葉の、一葉の

一葉の葉を出事に進むの國

以降

一葉の葉を出事に進むの國

而り是の

御聲、七、庸邊の又

お叶

一葉の葉を出事に進むの國

一葉の葉を出事に進むの國

+

一 寄与竹本誠二の手記

義重不居

セ子

寄与竹本誠二の手記

寄与竹本誠二の手記

苦

寄与竹本誠二の手記

寄与竹本誠二の手記

苦

寄与竹本誠二の手記

寄与竹本誠二の手記

時

寄与竹本誠二の手記

首日

79
15

一 港付近在港在森前用售
木作事少有百十方不外
便當在港水事少有此處之

一 墓三事行、移支方也無有

一 壴港前水事少有

一 吃食處之日度之未用花

山地水岸冲水起大港

倒水河中水事少有

倒水河中水事少有

大肩折一毫題字一行

至一毫。若取三和水之水事少有

至草木根折一从赤誠之水事少有

沙事少有水事少有

春種向一草庵處之物

初學一筆一言矣

別二双生ニ考究

拉一从也一望人

此一筆ニ清照筆

二朝太翁唐宋
第三卷因圓坐

外也

白帝一支煙沉一未足

白帝一夕半宵歸

白帝及半之辛子

白帝及半之辛子

一筆一筆有如子則文修

清照詩傳之不外

以教

東方子東方文之子竹代也

之子之詩等之子東方文之子竹代也

大字

79
17

參拜事外の事あるべく御心地
支度承差し上り候事今後詔書二
件付て來事一の事、うし未年
此處にて奉拂可年後事アリ
事外の事あるべく御心地

卷之二

一用是多事也。故其後
一中則以爲此。而其後
家事更不收。至是
三子矣。

一理一元子初嘗
一月多過半此一念不無上
真氣不平少時有此一念之妄也
三世以降

一 章子竹林林生而往

一 治川半一為官守而滿上自餘者亦然

至焉而以終日之北二今方也一以之全以被毛

自南而北在半一為官守而時之此則也
作成也而廟りを考ニテ行乃じ今之

古事記一之也也而行乃今之今之

四 早翠三春寒用上音

一 一言既設而事中事失意者一言而止
其後半一言是乎一言是乎也而止

其後半一言是乎也而止

五 一言半一言是乎也而止

六 一言半一言是乎也而止

言代申未者

一 東方丈の事

武高う御殿城へ併東方未見者
未以年之月日年例也言代申未
御是御殿城へ併東方未見者
未以年之月日年例也言代申未
御是御殿城へ併東方未見者
未以年之月日年例也言代申未

二 代
三 代
四 代

五 代

被古方御也承 被代御也承
被古方御也承 被代御也承
只今御也承 被古方御也承
被古方御也承 被代御也承
被古方御也承 被代御也承
被古方御也承 被代御也承
被古方御也承 被代御也承
被古方御也承 被代御也承

六 代
七 代
八 代

九 代

79
20

事有りて而より取る心
子のりはるかに於く也

事有りて

事有りて

事有りて
元秋知缺所の爲め
正月の事にて未だとど
考も以れども事有りて
事有りて

一 桜花の聲を筆致在二月わづて

春候む事無きを力す今春名
花有りリ至一月

一 正月より中後日事有りて
人有りて

事有りて

一 事有りて

事有りて

79
21

ナニキ

一 露凝水成也。一葉をこしと重ね
一叶をこしと重ね十日留め
れやうに方舟をもじ北川より出
候三日

ナニ

二 立木の木

一 青松弓羽根。青松弓羽根
松庭等。是處今世傳。一弓根

布

一 木立の木

一 道一木の木。道一木の木
木立の木

一 梨木の木。梨木の木

大

一 売出物一併付与の事無く之を承
付基方、故元本店等

一 横河屋方の事務所にて

一 五銭玉器手錠等の事務所にて

一 三月廿日同上御用事等の事務所にて

一 三月廿日同上御用事等の事務所にて

一 五年正月廿日同上御用事等の事務所にて

一 萩原文清は年中平日

古事記

ナリ事ト

一 渡ニ及ばれ

7/24

一 告、吉上廿年、是日、大和、度、有
一 事、行、之、往、來、以、是、日、以、是、事、
一 高、山、上、張、着、日、當、上、
一 西、大、考、而、喜、元、初、
一 乃、十、乃、
一 小、名、子、勿、多、發、
一 亂、擾、內、如、其、事、後、事、有、
一 也、此、事、而、
一 擬、高、行、以、高、
一 事、行、之、行、之、洋、
一 擬、大、事、而、
一 擬、大、事、而、

廿、時、已、

國立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

79
25

滿山萬樹竹子的
一葉子也
半生半死的
北岸石上
有些有
些沒有
三三五五
的在那裏
一葉子也

This vertical column of ink sketches on aged paper depicts a series of stylized, organic forms. The top sketch is a cluster of dark, branching shapes resembling a hand or a plant. Below it is a large, oval-like form with internal lines suggesting depth or texture. Further down is another organic shape with a more defined, leaf-like or petal-like structure. At the bottom, there is a sketch of a figure or a complex arrangement of lines that could represent a face or a group of people. The entire column is set against a background of light-colored, textured paper.

廿三

故人復神其事
服之可通
一毫無所知
至乃一物不
生多子如春
滅度無盡無
時無始無終

卷之三

卷之三

亦一

支那の人文書院より

秀三酒

其不景手ノ作人被不者

不者ノ今也取其外物
之者也而其身の如く

其外物の如く其の如く

其外物の如く

其外物の如く其の如く

其外物の如く其の如く

其外物の如く其の如く

其外物の如く其の如く

其外物の如く其の如く

其外物の如く其の如く

其外物の如く其の如く

其外物の如く其の如く

其外物の如く其の如く

わが身は一西とす。うの草木は朝か
おおれでかくまうすや。かり身
沙り身ともいふ。うの身は作ら

一章身ゆく身す。うの身作ら下部
あをもむかせまよ。うの身作ら上部
うの身作ら上部す。うの身

サ言

一浪西言ひ。十三四言ひ

一浪言ひ。十三四言ひ

一浪言ひ。十三四言ひ

一浪言ひ。十三四言ひ

サ言

一浪言ひ。十三四言ひ

一浪言ひ。十三四言ひ

一浪言ひ。十三四言ひ

28

29

一 繁榮の事無く、家業の繁盛
一

九月朔ノ

一 沢草仁王母大不善事行處

林壁

活後三言

古

一 沢草仁王母大不善事行處

林壁

活後三言

古

活後三言

古

古

写真

790

一序一月万日とお手の事

一遠き事第ニ西郷従道

弓

一想一月二十日 詩新

玄蕃

一松谷力公と玄蕃

一玄蕃著色引出ノ義弟坐氣

見前竹節玄蕃

古

一想一月二十日 詩新

一義弟同往處

義義

森達三秀

一遇得一月二十日

弓

一想一月二十日 詩新

一義弟同往處

義義

森達三秀

一もナリナニ一義弟同往處

義義

國立公文書館
National Archives of Japan

國立公文書館
National Archives of Japan

9

三

卷之三

七言律詩

一
春風又綠江南岸，
萬紫千紅總是春。
日暮東山夕照紅，
一派霞光滿晚空。
一
一葉孤舟一葉舟，
一蓑一笠一扁舟。
一
一葉孤舟一葉舟，
一蓑一笠一扁舟。
一
一葉孤舟一葉舟，
一蓑一笠一扁舟。
一
一葉孤舟一葉舟，
一蓑一笠一扁舟。

大義國事を思ひ、是の事に従ふ
一おまえは國家よりこの内に
信義を失ふ事無く、其の事に従ふ
上に、身が死んで此の内に失ふ事無く、
六道ありて之の念がて死んで生る事有
い。底本、或は、この本を知らざりき。
甚想、其の事に従ふ。

一
おれが身にまつた事
手のひらの黒毛

中嘉
四月八日
收入宝傳
原中華書局
影印

卷之三

79
33

寺贊

日元

寺贊

日元

寺贊

日元

義人行傳言

名號者ヲ

西ノノノノノ

平あたて衣付

聖事、尚考ア

聖事

教上云々五方五方、五方也、

到向方也いととの仰せ

諸事事、若事事、國事事、うれい事事

事事、神事事、事事、事事

事事、事事、事事、事事

事事、事事、事事、事事

事事、事事、事事、事事

事事、事事、事事、事事

事事、事事、事事、事事

事事、事事、事事、事事

事事、事事、事事、事事

事事、事事、事事、事事

一 事あれば必ずおまかせしと申す
おまかせする事あつてはござり申す
事あつてはござり申す

一 鳴一寺 おまかせする事あつてはござり申す
おまかせする事あつてはござり申す

一 横田六助 おまかせする事あつてはござり申す
おまかせする事あつてはござり申す
おまかせする事あつてはござり申す
おまかせする事あつてはござり申す
おまかせする事あつてはござり申す
おまかせする事あつてはござり申す

一 藤田六助 おまかせする事あつてはござり申す
おまかせする事あつてはござり申す
おまかせする事あつてはござり申す
おまかせする事あつてはござり申す
おまかせする事あつてはござり申す
おまかせする事あつてはござり申す

一 横田六助 おまかせする事あつてはござり申す
おまかせする事あつてはござり申す
おまかせする事あつてはござり申す
おまかせする事あつてはござり申す
おまかせする事あつてはござり申す
おまかせする事あつてはござり申す

一 横田六助 おまかせする事あつてはござり申す

一 横田六助 おまかせする事あつてはござり申す

序文を書く事多し。其の事大幸
人を重んじて、其の事もやうやく

ナニヤル。

一 善運とぞき。

一 明一成也。

一 がまくわ情事へそりし

一 義理を盡す門の先に萬物

一 極めて無能也。

一 あやまつて御用事に付く事

一 本居宣長

一 おれの心は、人の心より多く思ふ

一 本居宣長

一 道徳の事より、心の事より

一 漢全物中々うり入爾
二 漢一汎和爾也
一 菊川也
一 菊川也

79 37 37

一 壬午の日京せしと早朝清秀に來
五時二章坐て延々通夜の代ニ申す事あり
因申す事アリ前日行成三日去れ所
言ひ事アリ古事記也

一 予向事アリ河井事アリ此事アリ
葉山道場
一 真木子ノ威勢アリ在所處處也者
不思議也

大智

一 伸孝治多四鉢ニ五指一枚枕本
此事アリ

池田と市火とは因通く

一 宗國歌の歌多才不持手左音也其事アリ
右音也

一 桂枝狂歌の歌之林アリ後峰源
不思而歌アリ之ノ歌第三十六山口作業
以降一叶歌ナシナハナホシ外歌の歌
萬葉抄名其事也

甘

一 朝一水文一也同上

一 朝一水文一也同上

甘

一 二号に於て是事は既に了す事無し不仕
方此向見え候、外事方やうもあ
リ御前より御主事中へと奉呈
本邦よりナリ通候。

新宿にて手元持成可

貢物送付

吉野守主事

吉野守主事

一 芳

主事

主事

一 芳

主事

主事

一 芳

主事

一 芳

主事

主事

79
39

一月夕立をかわすの事無三日
あさりすらありぬこゆはる
一月水立をむねるに、之をかく
りよだれ口へて、かくちをひらき
かくすすりの川、北城下のやうに
一月立をかく、皆今すばかり去ラ
く能く

卷之三

萬葉五至六百四十一

一由君初仕于宋寧宗
今一十三年矣
大抵不以爲意
亦不知其所以然也

一
萬物皆以氣為體，萬象皆為氣之形。故曰：「萬象之具體，萬理之全體。」

朱子語類卷之三

神日未到酒已醉
此三如斯同三章
醉也者学道而犯非
主沉鬱矣 朱子記

升平樂
酒去作
歌三吹激又不

卷之三

東坡集

懷

朱二口奉領清所之啓

執事者宗義子
姜君知縣

卷之三

朱熹集解卷之三十一

卷之三

其一
郭子化
元之
其二
其三

卷之三

物及布疋等項。在雙

布衣始著清衣之十二年也

卷之三

王
南
大
事
記
卷
之
一
目
次

卷之三

萬物有歸處，聖人能行之。

卷之三

卷之三

一
九
八
七
六
五
四
三
二
一

卷之三

一
中興之時，吾人當以爲幸。但不幸者，
吾人所見者，多爲不肖之輩。故吾人
所見者，多爲不肖之輩。故吾人
所見者，多爲不肖之輩。故吾人
所見者，多爲不肖之輩。
相國

一時之發一念之妄動可謂之不打聽
黑者可生無聲者人方
以耳為目以口為舌以鼻為鼻
蓋不平亦如以口為舌以鼻為鼻

卷之三

一過三元子也。年來不復有之。
一丸也。古有之。
一毫毛也。人所當知也。

卷之三

卷之三

79
42

卷之三

サハリ東

一達處本聲人相合多子あす出でる事
ルシ

一此立永ノ事トニテ清高外也サニ
原

元氣也白麻聲也義政也松浦也
松浦也詔也金葉也原也枝也義經也
至也原也原也同也

サハリ東

一達處本聲人相合多子あす出でる事

西也上也一枝也沙也原也

沙也上也一枝也沙也原也

サハリ東

沙也上也一枝也沙也原也

沙也上也一枝也沙也原也

不果とゆめスリナカトアサウテ松葉を鑑定

鋪市ヤカニモ、翁ガリ

カニカナセ取

日未正月、三月を主とす

正月三

代引者登、某家

而其家有

御用金、金之用

の如きが用

は參り、已進一而二事かづれ

て御用、其外多事より今ま

至る事無事、御用、す、一、序

事有り、御用、の事、内、外、其事

事有り、御用、の事、内、外、其事

事有り、御用、の事、内、外、其事

事有り、御用、の事、内、外、其事

事有り、御用、の事、内、外、其事

事有り、御用、の事、内、外、其事

事有り、御用、の事、内、外、其事

美作守代時年 美作守
秀忠公御遺物 老松葉

秀忠公御遺物 老松葉

美作守代時年 美作守
秀忠公御遺物 老松葉

之多之多也。方其去焉

亦必行也。而其事未嘗不傳矣。而其事

猶存也。而九其名也。而其事

而其事。而其事。而其事。

而其事。而其事。而其事。

而其事。而其事。而其事。

而其事。而其事。而其事。

而其事。而其事。

而其事。而其事。

而其事。而其事。而其事。

而其事。而其事。而其事。

而其事。而其事。而其事。

而其事。而其事。而其事。

而其事。而其事。

而其事。而其事。

79.
47

卷之二

行軍中作

西台後漢書文獻卷之八
太常卿十公
名號

文獻
太史公書

文書事務所
文書事務所
文書事務所
文書事務所

孝子傳 卷之二
方翼 太常
王太常 桑弘羊

今本
卷之六

御中
大藏
大奇

太常 卷之六

卷之三

十日未之見
也。故
不
以
爲
一
事

少節之說而空

卷之三

乙未年夏月三月廿八日
王守仁

卷之三

文
獻
卷
之
三

卷之二十一

卷之二

Aug 27

卷之三

